難関私立大対策講座―現代文―

はじめに

伝統と歴史を誇る、明治大・青山学院大・立教大・法政大・中央大・関西学院大・関西大・同志社大・立命館大など関東と関西の難関私立大対策講座です。それらの大学の過去問題から代表的なものをピックアップ・編集してテキストとしています。ただし、やみくもな過去問集ではなく、近年の出題傾向を反映するとともに現代文理解と解法を語る上で意義のある文章をそろえました。入試素材としてアタックする価値があるとともに読書上の価値も高いものばかりです。

なお、当日の講義を最大限意義のあるものとするために事前に予習して、つまり解答をつくってから授業に参加してください。では、当日を楽しみにしております。

予習について

全講義予習しましょう。問題にアタックして解答をつくってから授業に参加してください。

復習について

間違えた部分について、同種の問題が本番でも出題されるというつもりで、見直してください。その後、スタディ・サプリのアーカイブの問題などにどんどんアタックしてください。

ノートの取り方

テキストへの書き込みが基本です。赤／青／緑の三色をご用意ください。文章の対比を色分けして塗っていきます。

解法の手順 ……**文章（論説も小説も）は、すべて対比とその言い換えの連鎖からできている。そうであるならば……**

少しでもはやく確実に読解するために

1 本文末の**書名＝タイトルを見る** → **テーマが判明する**ことが多い。さらには、「○○と○○」というようにいきなり**対比発見のてがかり**をくれることもある（現代文では、書名をつけることは多い。とくにセンター試験現代文では必ず記載されます！ 論説では文章の終わりに、小説では冒頭に書かれるのが普通です）。

2 **設問の傍線部と問題文**をざっと読み、キーワードの見当をつける（**設問は本文のキーワードにかかわることが多い**）。ただし**選択肢まで読んではダメ**。たとえば五択なら四つは誤りの選択肢なのだから、先に読むと歪んだ先入観ができてしまう。

（3 **論説では、本文最後の数行を先に**目を通し、テーマおよび結論、キーワードと対比の見当をつける。）

1と2で充分な見当がつけば、4に移行してOK

4 **本文を冒頭から読む**

プランA……設問の傍線部や空欄にあたるたびに、それらを含む段落を読んでから解答する。選択肢などは、その時点でしぼれるものはしぼる。ただし問いの約半数は全文を読みとおさないと解答できないから、読んでいる途中で判断できないものは先送りにする。

プランB……プランAだとぶつ切りで文章理解のリズムが壊れるとお感じの人は、全文通しで読んでから各問に取り掛かってもよいです。

記述式問題解答へのガイドライン

1　**字数指定の八割以上**書くことがのぞましい（「五十字以内で説明せよ」という設問なら四十字以上書く）なお、指定字数の半分（五割）に満たない場合は、採点の対象とならないことが多い（つまり0点）

2　記述解答の採点は、**原則的に加点制（ポイント制）**（キーワード・キーフレーズごとに得点を与える。つまり、余分なことを書いたとしても減点はされないのが普通だから、字数の許す限り、重要と思った語句を記入してやる）

3　**誤字・脱字・略字**はそれぞれ1点減点（とくに略字は印象悪いよ！）

4　**「理由はなにか」「なぜか」**などの問いかけに対しては、「〜から。」「〜ので。」「〜ため。」など理由を示す語でしめくくる。そうでないと、1点減点。逆に、理由を求めている設問ではないのに「から」「ので」「ため」でしめくくると減点だよ。

その他解答欄・解答用紙に関する諸注意

a

	人	間	は	…

→ ※**「原稿用紙」ではなく「解答欄」**だから最初のマスを空ける必要はない

b

…	…	…	こ	と

→ ※**句点なし！**（1点減点）
設問文に「句読点も字数にかぞえる」とある場合、文末には必ず句点（。）をつける・句読点をかぞえるという指摘がない場合でも、「説明終わり」の印として句点（。）をつけるのが原則
ただし、「抜き出せ」という設問の場合は、当然本文のまま（余分なものは付けない）

c

…	…	…	こ	と。

→ ※**句読点は一文字分！**（1点減点）

より本質的な記述問題への解答の仕方〈答案に盛り込むべき要素〉

○具体例は原則としてカット。よりまとまった表現を解答に盛り込むべし！
○対比の表現（AではなくBである）！
○繰り返し、言い換えられている表現は大事。ただし一本化！

抜き出し問題の諸注意

……「語」「語句」「一文」などと表記されているものの範囲について

○「語」＝「一単語」・「ワン＝ワード」・「一品詞」（ただし「一文字」とは限らないからね！）
○「語句」＝複数の単語もありうる。「語」よりも広い概念。「部分」と表記されることもある。
○「一文（文）」＝句点（。）で区切られるまとまり。

語 ⇐ 心身
語句 ← 心身の一体性

（例）心身の一体性、すなわち、身体が真に身体としてあるとき、身体は「外部」的ではない。この考察は、「道具」を見直す契機になる。

⇒ 一文・文

誤りの選択肢の典型例一覧　〈誤りに名前をつけられるほどのパターンがある！〉

1 対比混乱の誤り……本文中で**対比・区別**されていることばを同種のものとして扱ってしまっている誤り。あるいは、主役キーワードの説明を求めている設問で、敵役キーワードを挙げている誤り。**キーワードのグループ分け失敗**といってもいい。

2 同一性分断の誤り……本文中で同種のことばを対比であるかのように扱ってしまっている誤り。これも**キーワードのグループ分け**失敗。**同質性分断**ともいう。

3 正しい対比喪失の誤り……本文中で「**A↔B**」という対比で記述されているのに、無関係な「C」という要素を勝手にもちこんだり、「**C↔D**」といった本文にない対比をもちこんでいる誤り。例えば、本文は「**善↔悪**」という対比で書いているのに、「美」や「醜」という無関係な対比をもちこみ、本文の正しい対比を見失っている誤り。

4 不当な全称判断……本文中の記述がないのに、「**すべての○○は**」「**あらゆる○○は**」と勝手に拡張している誤り。類似した誤りとして**不当な一般化**があります。例えば本文では「バラ」という個別のものに焦点を当てているのに、「花というものは」などと拡張している誤り。

5 不当な限定判断……本文中の記述がないのに、「**○○のみ**」「**○○だけ**」と勝手に縮小してしまっている誤り。類似した誤りとして**不当な矮小化**（わいしょうか）があります。例えば本文では「人間関係全般」について書いてあるのに、「近所づきあい」の次元を書いている選択肢。話を不当にちっぽけにしているわけです。

6 不当な価値判断（不当な当為（とうい）判断）……本文では「○○である」「○○だ」という事実判断をしているのに、「**○○であるべきだ**」「**○○にしなければならない**」「**○○する必要がある**」と勝手に改変してしまった誤り。またAとBの特徴の比較をしているだけなのに、**Aの方が優れているといった優劣を持ち込んだ**選択肢の誤り。特に論文を読んだり書いたりする上で、「事実判断と価値判断（当為判断）」との違いには気を使う必要があるんだよ。

7 **部分的指摘の誤り**……本文中では、「**AとともにB**」「**Aと同時にB**」「**AしかもB**」と追加表現がなされているのに、「A」だけ、あるいは「B」だけを扱ってしまっている誤り。本文の記述にまったく反しているわけではないため、「高度な」誤りといえます。こういうものに気づけるようになることが、現代文での高得点のカギだよ。

8 **記述に反する誤り**……文字通り、本文中の記述に真っ向から反する選択肢。例えば本文では「AはBである」としているのに「AはBではない」としている誤り。

9 **記述なしの誤り**……文字通り、本文中の記述にはいっさい書いてない内容を勝手にのせている選択肢。ただし、「本文の記述に反しているものを選びなさい」といった間違い探しの設問のとき、本文には書いてないだけで、間違いとはいえないということがあるから注意。つまり、「誤り」としては1〜8・10〜12のほうが深刻な誤りといえ、そちらを優先する。

10 **文脈喪失の誤り**……文章中で特定の意味づけをして使っていることばを、**文脈外の「常識」や辞書的な意味**で扱ってしまっている誤り。例えば、「飛躍」ということばを、本文は「行き過ぎ」「誤解」という意味付けをして記述しているのに、勝手に「発展」「前進」というようにとらえてしまっているもの。

11 **物理的スリカエの誤り**……**心理や気持ちを問うている設問で、物理的に説明している選択肢**。小説問題の選択肢としてよく出ます。例えば「暗い気持」を天候や日照量の説明にしてしまっている誤り。

12 **比喩を文字通りに解釈した誤り**……本文中で、たとえになっている表現（擬人法もふくむ）を文字通りにとってしまった選択肢の誤り。比喩は立派な表現技法です。これをリアルに解釈するとずいぶんおかしなことになります。例えば「いやー、歩きつかれちゃって、膝(ひざ)がわらってるよ」なんて表現があるけど、ホントに笑ったら怖い！

13 **具体例は、一段、落ちる**……具体例を挙げている選択肢は、「最も適当」な選択肢を選ぶ際には、選びたくない。もっとまとまった語句を盛り込んでいる選択肢が正解になる。

14 **比喩による説明は、一段、落ちる**……たとえで説明している選択肢は、「最も適当」な選択肢を選ぶ際には、選びたくない。もっと明示的な語句を盛り込んでいる選択肢が正解になる。

目次

第一講　〈論説〉漫画文化論・戦後史論……鶴見　俊輔　p. 8
第二講　〈論説〉現代社会論・メディア論・記号論……米澤　泉　p. 18
第三講　〈論説〉科学論・精神医学論……中井　久夫　p. 26
第四講　〈論説〉文芸論・詩画集論……大岡　信　p. 36

第一講〈論説〉漫画文化論・戦後史論

次の文章を読んで後の問いに答えよ。

いじわるばあさんの登場は、おそらくは作者の生涯における一つの(1)危機に根ざしている。(注1)長谷川町子の家庭はキリスト教に早くから入っていたが、若いころの彼女は、あまり熱心な信者ではなかった。牧師がたずねてくると、相手をするのは、もっぱら母親であり、町子は、深刻な話題をさけて、便所にかくれたりした。

苦しいことがあれば、お風呂に入るというのが、若いころの特効薬だったようだ。しかし二十数年も、助手にたすけられることもなく毎日、漫画をかきつづけるというのは、たいへんな仕事だ。お風呂などではなかなか気分の転換がはかれず、途中で、スランプにおちいって、他の人のくらしかたがうらやましく思える時もあったらしい。四十の坂にかかり、作品の上では二十代の主婦に感情移入して毎日活躍していても、そこにもりきれない感情があって、作品がそのまま自分を解放するという幸福な状態ではなくなった。一九六〇年代の高度成長の時代に育った若い日本人の風俗からはじきだされた中年の女性として孤独感をあじわうようになった。

自分にもっとも忠実な弟子である愚直なペテロにたいしてさえ、あすの朝にわとりが鳴くまえに、おまえはわたしを三度うらぎるぞと言ったイエス・キリストの皮肉なまなざしを、彼女は、戦後の日本にたいしてむけるようになった。『いじわるばあさん』にはそういう視点がある。そして、みずからの独身中年女性としてのおきざりにされたいやな感じを、ひととびに中年から老年にむかってさらにはげしく変身させることをとおして（もっとも「エプロンおばさん」という中年女性を主人公にした作品もあるが）、もっとにつめてゆき、自分をおきざりにした社会にたいする攻撃に転じた。

□、この時になっても、作者は、サザエさんをすてて、いじわるばあさんにおもむいたのではない。あくまでも、サザエさんといじわるばあさんの二人三脚で、戦後の日本社会に対している。いわば、ここには、戦後の民主主義についての当事者としての(2)渦中の論理と、列外におかれたものとしての(3)傍観の論理との合作がある。

もちろん、サザエさんといじわるばあさんの両人をくみあわせても、それでもとらえられない戦後日本の問題はたくさんある。

たとえば、サザエさんのおとうさんは、おそらくは、十五年間の戦争に何かの仕方でくわわっていたのだろうが、このおとうさんはみずからの戦争体験をかたることがない。サザエさんの夫となった人も、おそらくは兵士として動員されたことのある人なのだろうが、その立場から何かをのべたということがない。つまり、この「サザエさん」（二十代）――「エプロンおばさん」（五十代）――「いじわるばあさん」（七十代）のすべての主要作品を通じて、作者は、女性の側からのみ、日本の社会の問題をとらえている。

(4)こういう見方は、国家の運営をまかされたと感じている官僚の考え方とはずいぶんちがうものだし、その官僚を抽象的原則によって批判する学生の考え方ともずいぶんちがう。

ひとりものの学生の時だけは急進的な立場をとって権力を批判し、家庭に入ると急に老いこんで権力に同調的になるという一般的傾向とは、かなりちがうコースを、「サザエさん」は示している。家庭内での助けあいと対等の倫理をひろく社会に適用することを求めるという立場について、「サザエさん」は戦後をつらぬいている。大学でも、総合雑誌でも、戦後民主主義は評判がわるいが、「サザエさん」をとりあげて読みはじめると、戦後民主主義が色あせずにここにあることを私は感じる。政界や論壇の戦後民主主義の代表者の議論のように色あせて見えないのは、それが生活のスタイルをとおしてうったえる戦後民主主義の理想であるからだ。

「サザエさん」の家庭が、今の日本で大勢をしめている核家族だけでとおすという理想につかず、三世代一緒にくらすという姿勢をつらぬいているところに、この作品が、おもに家庭内の話題をとりあげながらも、社会批判としての側面をうしなわない理由があると思える。

サザエさんの家庭では、父親はいつも、彼なりによくやっているとは認められているものの、(5)たいして偉い人とは思われていない。彼が、サザエさんよりも背丈が小さいのも、その象徴としての意味をもっている。戦前の日本は、天皇が日本人全体の父親であるように、家庭では父親がたてられているというふうに教えられていた。このようにして国家は一つ一つの家庭ぐるみに日本全体をとらえるしくみになっていた。しかしサザエさんの家庭のように、父親が誠実だが無力な小さい人となり、一家のむすびつきはむしろ母親と長女をとおしてなりたっていることが家庭全体に公認されている時、そこでそだった感覚を社会全体にたいして応用すると、日本の国家は、どうなるのか。イソノ家としては墓まいりには行くものの、自分の家が未来にたいし

てもつ万世一系性などを信じてはいない。自分の家にたいするこの感じ方が、国家にむけられるとどうなるのだろうか。「サザエさん」の思想に共感をもつ人びとにとっては、政府の命令一つで私生活を犠牲にして何でもするという気にならないことはたしかだ。

「サザエさん」は、日本の国家の統制力がゆるんだ敗戦直後の時代にうまれた。この時代には、家庭は、ただあたえられたものをえらんで買ってきてたべるということでは経営できない。家庭菜園で食糧をつくり、それでも足りないから、法律をやぶって足りない米のおぎないをつけるための闇買いまでしなければならない。町でうっていないさまざまのものを、（注2）タドンから衣類にいたるまで自分でつくらねばならない。家庭は消費の場であるだけでなく、生産の場でもあった。その敗戦直後の気風は、「サザエさん」の作者の家庭の中でも二十数年のあいだにうすらいでゆくが、しかし作者たち三人の姉妹があいよって「姉妹社」という出版社をつくって流通機構の管理をつづける中で、長谷川家には、消費本位の家庭にもどることのない戦後の多面的な家庭の気風が今日もなおのこっている。このことがおそらくは、「サザエさん」の中に、高度成長時代の日本の家庭から見れば一時代おくれた家風をのこしている原因であり、それは時代おくれであるとともに、(6)現代の実際の家庭にたいして、戦後の理想を説くという理想主義的な役割をあたえている。

（鶴見俊輔『漫画の戦後思想』文藝春秋による）

（注）1　長谷川町子――日本初の女性プロ漫画家（一九二〇〜一九九二）。
　　　2　タドン――木炭や竹炭の粉末を団子状にして乾燥させた燃料。炭団。

問1　傍線部（1）について。ここで書かれている作者の「危機」とは何に根ざしていると考えられるか。次の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

1　キリスト教の熱心な信者ではなかったこと。
2　二十数年も漫画をかきつづけることはたいへんな仕事であり身体的にも精神的にも疲弊していたこと。
3　漫画家として才能の限界を感じるようになったこと。
4　四十の坂にかかり、いつまでも二十代の主婦（サザエさん）に感情移入していられなくなったこと。
5　若い人たちの感覚とのギャップからつよい疎外感を覚えるようになっていたこと。

問2　空欄［　］にあてはまる接続詞はどれか。次の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

1　そのために　　2　なぜなら　　3　もちろん　　4　ところで　　5　しかし

問3　傍線部（2）・（3）について。戦後の民主主義についての「渦中の論理」と「傍観の論理」を象徴するのはそれぞれ誰になるか。次の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

1　「渦中の論理」・・サザエさん、エプロンおばさん、いじわるばあさん
　「傍観の論理」・・作者（長谷川町子）
2　「渦中の論理」・・エプロンおばさん
　「傍観の論理」・・いじわるばあさん
3　「渦中の論理」・・いじわるばあさん
　「傍観の論理」・・サザエさん
4　「渦中の論理」・・作者（長谷川町子）
　「傍観の論理」・・サザエさん、いじわるばあさん

5　「渦中の論理」・・サザエさん
「傍観の論理」・・いじわるばあさん

問4　傍線部（4）について。「こういう見方」として合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。
イ　「サザエさん」や「いじわるばあさん」にみられる日常的な生活観や社会に対する考え方。
ロ　みずからの戦争体験は家庭内で日常的に語りつがなければならないという考え方。
ハ　官僚は国家の運営に責任をもつべきだしそのことを批判するべきではないという考え方。
ニ　家庭に入れば現実的な考え方となり、権力に同調することはしかたがないという考え方。
ホ　日常生活において家族が協力するといった価値観は社会に対しても適用されるという考え方。

問5　傍線部（5）について。サザエさんの家庭では、父親は「たいして偉い人とは思われていない」とあるが、その説明として最も適当なもの一つを、次の中から選び、番号で答えよ。
1　戦前の日本社会において、家庭では父親がたてられると教えられてきたが、戦後はその価値観が変わった。
2　サザエさん一家の結びつきはむしろ母親と長女の結びつきで成り立っており、父親の存在が小さかった。
3　サザエさん一家の結びつき方は、戦前の家父長制とは相いれず、戦後民主主義に通じるものがある。
4　サザエさん一家では女性が活動的なので、父親が家庭内で役割を果たす機会が少なかった。
5　戦後の日本社会において、父親が偉いと思われるためには社会的地位の上昇や経済的成功が必要である。

問6　傍線部（6）について。「現代の実際の家庭にたいして、戦後の理想を説く」とあるが、ここでの「理想」として合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。
イ　敗戦直後のように家庭菜園で食糧をつくるなど、食糧自給できる家庭。
ロ　食糧や日用品を単に消費するだけでなく、さまざまなものを生産しながら生活する家庭。

ハ　父親や夫がサラリーマンとしてはたらき、母親など女性は専業主婦として生活する家庭。

ニ　敗戦直後の物資不足から解放されて、豊かな消費生活を享受できる家庭。

ホ　消費本位でない多面的な気風がのこる家庭。

第一講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　鶴見俊輔＝つるみ　しゅんすけ（一九二二～二〇一五）ハーヴァード大学卒業。日米の戦争に際し「負けるときには負ける側にいたい」と一九四二年に帰国。高名な哲学者にして数々の漫画研究でも知られる

語句

牧師＝ぼくし→プロテスタント系の教会や教区で信者を指導する人。カトリック系なら「司祭」「神父」

スラムプ→一時的に調子がくずれていつもの能力を発揮できない状態。スランプ

風俗＝ふうぞく→日常的な暮らしや文化、およびそこで作られる心情

愚直＝ぐちょく→臨機応変とはいえないが真面目にコツコツ進める人柄。「バカ正直」という意味もある

皮肉＝ひにく→表面的事実とはことなる深層的事実を指摘すること。相手を遠回しに批判すること。アイロニー（イロニー）

おもむく＝赴く→向かう。進む

渦中＝かちゅう→大きな出来事の中にいるということ。当事者である状態

傍観＝ぼうかん→第三者の視点。他人事として見る見方

抽象＝ちゅうしょう→具体的なものから重要なものを抽出したもの。悪く言うと、具体性を欠いた漠然としたもの

急進＝きゅうしん→理想を追求して変革を急ぐこと。対義語…「保守」「守旧」「漸進（ぜんしん）（少しずつ進むこと）」

倫理＝りんり→道徳。人としてのあるべき道。エシックス

論壇＝ろんだん→学者や評論家の社会。言論界
誠実＝せいじつ→ウソやごまかしがなく良心にまっすぐ従うこと
万世一系＝ばんせいいっけい→永遠に家族（血筋）の系統が一本であること
統制＝とうせい→コントロールすること
気風＝きふう→共通してもっている気質やプライド

復習問題　第一講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）登場人物に感情イ入する　①異　②移　③偉　④依　⑤委

（イ）連載中のマン画に熱中する　①満　②漫　③慢　④萬　⑤万

（ウ）師匠に対してチュウ実である　①注　②註　③忠　④柱　⑤仲

（エ）グ直なまでに努力を重ねる　①具　②倶　③偶　④愚　⑤遇

（オ）人生のコ独を引き受ける　①孤　②狐　③個　④児　⑤弧

（カ）趣味の時間をギ牲にする　①戯　②義　③儀　④偽　⑤犠

（キ）カ中の人物が記者会見する　①過　②火　③禍　④渦　⑤課

（ク）本の流通機コウを調べる　①講　②項　③構　④抗　⑤稿

（ケ）官リョウの答弁に疑義が出る　①僚　②寮　③燎　④療　⑤領

（コ）急シン的な議論に参加する　①芯　②新　③進　④信　⑤真

模範解答

第一講　模範解答

問1　4

問2　5

問3　5

問4　イ　1　ロ　2　ハ　2　ニ　2　ホ　1

問5　3

問6　イ　2　ロ　1　ハ　2　ニ　2　ホ　1

復習問題解答

復習問題　第一講　模範解答

（ア）②　（イ）②　（ウ）③　（エ）④　（オ）①
（カ）⑤　（キ）④　（ク）③　（ケ）①　（コ）③

解答漢字一覧

（ア）移入　（イ）漫画　（ウ）忠実　（エ）愚直　（オ）孤独
（カ）犠牲　（キ）渦中　（ク）機構　（ケ）官僚　（コ）急進的